

ウィンクス、基幹システムのホロンと資本提携

## オムニ支援のワンストップ クラウドサービス提供へ

企業のオムニチャネル戦略支援サービスを強めているウィンクス(大阪市)は、アパレルを中心に流通小売業に基幹システム「AP」ビジョン21、NET「I」を提供するホロン(名古屋)と資本提携し、基幹システムと連携したクラウドサービスの共同開発に取り組んでいる。

オムニ化を支援するワンストップサービスが今夏にもスタートする。ウィンクスは、17年2月にホロンの第三者割当増資を引き受け、1080万円を出資した。ウィンクスは、自社・パートナーのソリューション・サービスを連携し、ユーザー企業のIT

(情報技術)資産を生かしながら、オムニ化を支援するクラウドサービスのメニューを広げてきた。しかし「基幹システムとつないで初めてサービスが完結する」(稲葉将ウィンクス執行役員)として、案件ごとにパートナーシップを組んできたホロンに出資した。AP「ビジョン」は、「既にか

表取締役)だ。さらにモジュール化を強め、マイクロソフトのクラウドプラットフォーム「アジュール」上で、ユーザー企業が必要なモジュールを選択できるものを今夏にもリリースする予定。従来型のパッケージの基幹システムは「価格が高く企業レベルで導入判断していた」が、「モジュールならばブランド単位の導入も可能になり、トライ&エラーもやりやすい」という。ハードルが高い店舗・EC

在庫の統合も物流センターのWMS(倉庫管理システム)と基幹をモジュールでつなぐことで可能になる。これまでもウィンクスはPOS(販売時点情報管理)、受注管理、CRM(顧客管理)などのシステムを提供し、リアルタイムの統合管理は可能だった。E.Cの統合管理は可能だったが、基幹システムとの連携で統合された原価管理なども可能になり、業務もシームレスにつながる。2月にはAI(人工知能)プ

ラットフォーム「センサー」を提供するカラル・ボード(東京)と業務提携し、AIプラットフォームと連携したサービスの共同研究も決めた。ウィンクスのオムニ化支援のクラウドサービスは、パートナーシップの広がりとともにさらに豊かになるだろうとしている。